

令和5年度第3回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定委員会 会議概要

- 1 会議名 令和5年度第3回安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想策定委員会
- 2 日時 令和5年10月10日 午前10時30分から午前12時00分まで
- 3 場所 安曇野市役所 3階 共用会議室306
- 4 出席者 安曇野市 政策部長 渡辺 守、商工観光スポーツ部長 鳥羽 登、
教育部長 矢口 泰
千曲川河川事務所 副所長 寺田 勝一
信州大学キャリア教育・サポートセンター 専任講師 勝亦 達夫
2000年シドニー五輪カヌースラローム日本代表 安藤 太郎
安曇野市商工会 青年部部长 岩垂 巧磨
安曇野市観光協会 企画営業課長 佐藤 亜紀子
合同会社うずまき（龍門測てらす） 横内 健人
アルプス女性企業家会議会長 石田 恵美
案内人倶楽部・安曇野市地域通訳案内士 長島 美樹
株式会社MIGRANT（アウトドア愛好家・民泊経営・一級建築士）小穴 真弓
- 5 事務局 政策経営課長 黒岩 一也、企画担当係長 白鳥 和子、企画担当主査 内川 聡介
- 6 公開・非公開の別 非公開
- 7 会議録作成年月日 令和5年10月10日

協議事項等

◎会議次第

- 1 開会
- 2 安曇野市長あいさつ
- 3 検討会議
(1) ワークショップの結果（資料1）
(2) 安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想 骨子（案）（資料2）
- 4 閉会

3 検討会議

- (1) ワークショップの結果報告（資料1）

【事務局説明】

- ・第2回及び第3回のワークショップの結果の報告

【委員】

- ・特になし

- (2) 安曇野市東部アウトドア拠点整備基本構想 骨子（案）（資料2）

【事務局説明】

- ・安曇野市東部アウトドア拠点整備の基本構想骨子（案）の提示
- ・「教育」と「観光」の両立・融合を目指す拠点コンセプト「自然、歴史、人が巡るにぎわいの合流拠点」の提示
- ・川だけではなく、まちなか、里山、空までつながるよう、「にぎわいゾーン」「自然満喫ゾーン」「歴史散策ゾーン」の3ゾーンを示し、各ゾーンの方向性・整備内容を提示
- ・「にぎわいゾーン」の中核拠点となるセンターハウスは前川の下流側（あやめ公園側グラウンド横の広場）に提示
- ・委員から事前にいただいたご意見（配布資料）の説明
 - ①明科は馴染み深い自然があることから、まずは地元の人が親しみ、子どもが楽しみ、親と一緒に楽しみ、外に伝わっていくということが良いのではないかと。地元の人が楽しんでいるところに観光客が来るのではないかと。
 - ②学習旅行に関して梓川沿いの梓水苑が人気なエリアで、明科と比べると宿泊施設やBBQができるよう整備されている。そこを参考にしても良いのではないかと。
 - ③修学旅行は観光であり、学習の場でもある。観光は地域のことを知ることであり、観光と教育は表裏一体のものであると考えた方が良いのではないかと。

【議長】

- ・第2回策定委員会では拠点整備箇所が認定子ども園の周辺に示されていたが、移動した理由を補足してほしい。

【事務局】

- ・前は駅から来た人が比較的目につきやすい場所として想定していたが、実際に地域スポーツクラブやトレーニングをする場合に、川の流れを確保できる場所がもう少し下流側の会田川と犀川に近いところで、今のゲートの位置を含めてその方が川の流れを作りやすい。
- ・それを踏まえて、利用者がそこから上がって体をきれいにしたり、意見交換をしたりする場所が下流側の方が良いのではないかとということで変更した。

【委員】

- ・動線はどのようにイメージしているか。車で来るか、電車で来るかでも変わってくると思う。

【事務局】

- ・基本的には車で来られる方が多いと思う。現状ある駐車場と骨子案の駐車場候補地に車を停めると、まず下流側に人が入ると考えられる。
- ・もともとウォーターアクティビティで川を下ってくる方は上流側（現在の多目的広場）も人が流れてくると思うので、2つの動線をイメージしている。

・駅から人がたくさん降りてくるというのは現状少ないと想定され、駐車場で車を降りたところが起点になると考えられる。まちなかも近いため、まちなかに人が流れていく想定。

【委員】

・駐車場は何台くらい止められるのか。

【事務局】

・骨子案の駐車場候補地は恐らく 20~30 台と考えられる。もう少し周辺の場所も検討が必要。

【委員】

・プラス 20~30 台では、現状で、イベントスペースの駐車場と合わせても 50~60 台だと思う。イベントをするにしても、イベントスペースの駐車場を使うとイベントをするエリアがなくなってしまうので、新たに駐車するスペースが必要だと思った。

・車で来るにしてもどこを通るかによって、センターハウスがあるべき場所が変わってくると思われる。

・今は川を中心に考えたセンターハウスの位置だと思うが、一般の方がイベントをしにきたときの駐車場やセンターハウスの位置は、今の範囲以外も検討された方がいいかもしれない。

【事務局】

・今のセンターハウスにアクセスするにあたっての動線はもう少し検討。

・現状の候補地は、川のアクティビティに特化した使い方を想定。一般の方のイベント利用を考慮すると、親和性は既存の管理棟の場所の方が高いと思う。しかし、その周辺に駐車場が少なく、車が入ってくる道も狭いため、渋滞の可能性も考えられる。今の提案エリアは、徒歩 10 分で移動できる距離。その辺りも含め、全体の動線を今後考えていく。

【委員】

・センターハウスの機能は、今提案されている会田川と犀川の合流地点に近い方がいいのか。それとも、今のイベントスペースあたりにあると使いにくいのか。

【委員】

・川の観点からすると、活動する人と付き添いの家族等が活動するエリアとセンターハウスが近い方が便利だと思う。お子さんや家族等が体験をするのを見学するには近い方がいい。

・一方で、今のイベントスペースや車が入ってくる場所等他の点を考えると、どこからお客様が入ってきて車を停めるのかが想像しにくい。

【委員】

- ・車で来る人がほとんどとなると、まちなかエリアに人が通らない。まちなかの活性化に支障にならないか。
- ・理想なのは、明科駅あたりに駐車場を準備して、そこから歩いてセンターハウスまでいけるとまちなかに動線が生まれる。
- ・河川の堤防は一般の車が通行していいのか。

【千曲川河川事務所】

- ・動線という中で堤防を用いた方がいいということであれば、協議次第で可能ではある。人が集まる場所には車を入れないという配置わけもできると思う。犀川と前川の挟まれたところをどうするかは、考えていかなければならないが必ずしもだめだということはない。

【委員】

- ・駅前に駐車はできないのか。駅が再開発されて駐車できる場所もほとんどなくなった。

【議長】

- ・そういう選択肢もあって良い。センターハウスはセンターハウスなりにアクセスが必要。

【委員】

- ・駅前は場所が少ない。しかし、センターハウス周辺に全部が集まると、歩いて回遊するということになるので、目的地に行って目的地から帰るということになる。それぞれのつながりを考えて、あえてまちなかに配置する方法もあるのではないか。
- ・私見を述べると、駅周辺は厳しい。犀川を越えて押野山側に駐車場を整備して、そこから橋など何らかの形で整備するなど。
- ・第2候補のように今のグラウンドにセンターハウスを整備する案もあるが、野球少年の練習場所がしっかり確保されることが必須。
- ・御宝田の白鳥湖は現状記載がないが、明科地域の大きなコンテンツであるから、何かに位置付けてほしい。

【事務局】

- ・御宝田の白鳥湖は今回記載していないが、冬季における明科の強みであるから情報発信等連携の対象として入れていきたい。
- ・説明の補足として、現在のセンターハウスの候補地は人がまちなかから流れてくる時に若干離れることは否めないことから、第2候補としてグラウンドの隅（現在の駐車場側）を提示した。第2候補の場所の場合、利用者から選手やトレーニングされている方がセンターハウスを利用しているところ

を見たり、例えばセンターハウスの1階がオープンになっていて川を両方から見られるようになったりすることも考えられる。一方で、どれくらい使うとグラウンド、野球に干渉しないかは検討が必要。

【委員】

・川を利用する人のためのセンターハウスとしてはどちらの案もいい場所だが、アウトドア拠点という全体を考えると違う場所、まちなかも考えられる。

【委員】

・2棟建てるのは現実的ではないのか？ボートを保管する等水場に必要な機能を下流側に持ってきて、水に限らない機能をもう少し大きいところを作る。

【事務局】

・関係団体のヒアリング等を通じて、アウトドア拠点を活用するという声あまり聞こえてこなかった。現状は、宿泊施設から直接アクティビティをされている等意向が少なかった。そのため、まちなかや里山に近い拠点に踏み切らなかったところである。

・もしガイド等を使うという声があれば、まちなかにということもあると思う。

【委員】

・恐らくその方々は使い方のイメージができていないから、構想でこう使って欲しいという機能を示せば良いのではないか。飲食店が入る、山も川もガイドが出入りできる等、明科に来た人がみんなそこにくる拠点のイメージ。

【委員】

・今話を聞いていて、センターハウスに人が集まるイメージがない。ただセンターハウスを作っても人はそこに集まらない、川に興味がない地元の人使わないだろうというイメージ。

・個人的に食、美味しいものがある場所だと人が来ると思う。キッチンカーエリアを設定しているが、飲食をセンターハウスに入れることはないのか。絶対に人が来るし、人がきてそこに滞在すると話がうまれる。説明のあったセンターハウスの機能だけではにぎわいは生まれないのではないか。

【事務局】

・冒頭の説明が不足していたが、今回の構想においてゾーン全体でアウトドア拠点として見ていて、全体でにぎわいを生み出す位置付けで、センターハウスのみではない。各エリアでにぎわい創出のための仕組みを入れることを想定している。

・センターハウスは、教育により活用したいと考えており、地域スポーツクラブやトレーニングをする方が繰り返し訪れたり、利用できるものを位置付け、一般の方が入れるオープンな場所を作ること

も想定している。人が寄りやすくなる余白を持った設計、スペースが必要。

【委員】

- ・ 飲食の話について補足すると、新潟県燕三条市で「ステージえんがわ」という公共施設を設計した。建物のほとんどが軒下のような感じで、誰でもふらっと来て利用できるスペースやレンタルしてイベント等に活用できるもので、真ん中におしゃれな飲食機能（スパイスカレー屋）がある。
- ・ 公共施設でも市の施設と思えないおしゃれなお店もあることから市民も誇りに思うし、食べにくる。公共施設だから食べなくても誰でも自由に利用できて、子どもが学校帰りに勉強しにくることもある。堅い施設ができるとう利用できると言われても利用したいと思えない。カフェのようなスペースとまちのものだという認識があると、みんな喜ぶので、そういった施設を考えていただけたらと思う。

【事務局】

- ・ ご指摘はその通り。どんなに立派な宿泊施設を作っても食が魅力的でないと人は集まらないため、食コンテンツは重要。

【委員】

- ・ そのスパイスカレー屋は、元々やりたい人がいてそこができたのか、施設ができるからやりたいという声があがったのか。

【委員】

- ・ 三条市のスマートウェルネス事業のために公共施設を作った。地域の高齢者が歩いて通える拠点を作ろうという事業。そこにスパイスカレー屋を入れたいと言ったのは三条市の方。三条市はカレーの街ということで、そこからおしゃれなカレー屋に入って欲しいということから、プロデュースするシェフまでは三条市が決めて、事業者は民間から募った。

【議長】

- ・ その他ご意見はあるか。

【委員】

- ・ センターハウスの場所として、公園の遊具がある場所はどうか。

【事務局】

- ・ 子どもがたくさん利用している。家族連れが遊びながら待ったりもしているから厳しいかもしれない。

・場所としては良いが、現状垣根で分離されているから、そこをきれいにして川も見れるようにすると、親しみの持てる場所になるかもしれない。

・まちなかで川に近いところや、飲食店ができていくような使える場所など、空き家発見をしている団体とも話をしながら考えていきたいと思っている。

【委員】

・水産試験場の下流部が使われていないと思うが、その活用や試験場との連携はどうか。

【事務局】

・一度担当者の方と話した経緯があるが、確かにそのエリアは使われていないが、土地の所有が民間も入っていたり等複雑で難しい状況にある。

・まだ貸せるかどうかという話はしていないため何とも言えないが、一番気にされていたのは排水で、バックウォーターがあると問題になるということである。

・使わせてほしいというご意見があれば再度相談に行く必要がある。

【委員】

・全体として敷地が足りないように見受けられたから質問した。グラウンドや公園が使えない、水産試験場もそういう話であれば、使える範囲をもう少し明確にすると大きな絵がかけるのではないか。

【委員】

・水産試験場との間に子ども園があるから難しい。

【委員】

・堤防もどれくらいまで使えるのか。

【千曲川河川事務所】

・堤防をイベント等の一時的な駐車場、臨時駐車場として利用するのはできると思うが、常時は難しいと考える。

【議長】

・狭いエリアなのでセンターハウスをどこに置くかがポイントになる。

【委員】

・センターハウスの話と一緒に思うが、キャンプ場・宿泊場がほしいという話があるが、今回その機能が抜かれた中で、何かイベントをやるときに民間に任せる、空き家を活用するとなると、いつ頃動き出せるイメージでやるのが重要になると思う。民間に任せると何年という単位で整備され

と思う。

【議長】

・センターハウスに宿泊を入れないということは決まっていない。案として提案していて、意見交換が必要。

【委員】

・分科会の中でもどの順番でやっていくかが重要という話があった。今年、川のイベントをやり、全国からカヌーの選手が集まって子どもたちのイベントを開いたが、宿泊するところに困った。その他の大会もみんな宿泊施設がないことに困っていて、昔はあやめ公園でキャンプができたが、今はできないから色々なところに散り散りになっているのが現状。いい施設が集まっても宿泊がなければ長期滞在に繋がらない。

【議長】

・宿泊施設は今後検討。

【市長】

・カヌーをやっている方はセンターハウスのイメージが湧いているが、そうではない方は具体的なイメージができない。

・プラハのカヌーのセンターハウスや土佐町のさめうらカヌーテラスの写真等を含めてセンターハウスに必要な機能等話して共通認識を持っていた方が、もっと話が進むのではないか。

【議長】

・16日に委員会メンバーで現地視察を実施する際に案内する。

【委員】

・プラハの郊外にあるカヌーのセンターハウスの事例紹介

・合宿所があって、世界的にワールドカップをやるようなカヌーコースの隣に、レストラン、ボートハウス、更衣室、宿泊施設、簡単なキッチンがあって、それだけでは足りないからホテルももう1棟建てられた。

・そういうところに人が集まってきて、トレーニングもしている。世界中から集まってコミュニティづくりの役割もあるし、宿泊施設として安く泊まれる。

【委員】

・プラハのセンターハウスは地元とのつながり、地元の人が雇用されていたりするのかな。

【委員】

- ・センターハウス自体はプラハ大学が持っており、プラハ大学自体は公の場なので、基本的には公が管理している。
- ・クラブの会員は、カヌーやラフティングなどのウォーターアクティビティを楽しみたい人が会員になっている。
- ・練習にもレジャーにも活用されている。
- ・カヌーだけではなく周りに道路もあって、安曇野に似ていて、堤防沿いを自転車が走っていたり、小さいビール屋があったり、キッチンカーみたいなものが並んでいて、夏になると自転車で来た人が利用したり、子どもたちと一緒に遊んだりして帰っていくということがある。
- ・センターハウスで働いている人や草刈りをする人、コースを管理する人も選手がほとんど。オリンピック金メダリストも全員自分でやっている。
- ・今色々な地方で人がいない。働く人を育てるのが難しくて、地元で何かこれをやりたいという人を募るのが先ではないか。山の方にセンターハウスを置くにしても、これを運営していくと手を挙げる人がいてくれたらみんなで力話を合わせていく話になるのではないか。

【市長】

- ・プラハのセンターハウスの宿泊施設は簡易的で学生寮のよう。隣のホテルはもっと立派。需要が出てきてしっかりしたものが必要になって建てられた。

【委員】

- ・プラハのようなセンターハウスができたときに、世界から、日本から、人が集まってくる場所なのか。

【委員】

- ・そのためには、コースの整備は必須。明科で教育や地元の人たちが誇りを持てるようにするには、ある程度、世界で活躍するような選手や良いガイドを育てるような場所までできる河川の整備が必要。
- ・中津川市でカヌーを頑張ってきた子がパリオリンピックの出場が決まった。今までそこでカヌーをやっている人がいると知らなかった中津川市で、みんなが盛り上がった。そういうことができるような施設を作り上げると、安曇野や明科も盛り上がるのではないか。そういうコースがあれば人が集まるようになる。宿泊施設ができればさらに。

【委員】

- ・宿泊施設を作った時に夏はいいが秋冬はどうするか。

【委員】

・松本が近いのは大きい。外国人は安いところ見つけていく。そういう方にセールスをかければビジネス的にもやっていけるようになるのでは。

・その場合、明科駅前にするという可能性もある。歩いていける距離がいい。子どもたちの合宿の際に、大人たちは毎回送迎ができないから、子どもたちが歩いていける範囲が良い。スーパーや図書館も近い。

・トレーニング施設も合宿というより、トップ選手を誘致するのに大事。年間の大会スケジュールに向けてトレーニングする。広くなくても十分で、これがあれば自分のパフォーマンスを上げながら合宿に行ける。トレーニングルームがないと、トレーニングが維持できなくなり、行かなくなるような場所もある。

・今公民館にあるトレーニングルームと必要な器具があれば十分。

・宿泊施設ができたとき、山の方は利用するか。

【委員】

・話を聞いていて、全体のバランスをとって盛り上げていくより、川で盛り上がればそこから山も登りたいとなるのではと思った。車で来てその日に帰る使い方ではなく、滞在してもらって、夏休み一週間とか。合宿所の料金体系だったら家族も滞在できるから良い。

【委員】

・そこで交流があると良い。合宿所の中で同じキッチンを使うことで友達ができたり。山もこれが綺麗で、とか、きのこがあってとか川の人と話すと、行く楽しみも増える。

【市長】

・地域の活性化という観点からすると宿泊施設は必要。宿泊者の方が日帰りに比べて消費額が3倍を超える。問題は、宿泊費を多少押さえるにしても、周りの商店や飲食等も必要。

【事務局】

・10月16日（月）の視察のご案内。

・次回の策定委員会のご案内。もう少し踏み込んだ案を提示する。

・その他ご意見はあるか。

【委員】

・コンセプトや骨子が間違っていると思わないので異論はないが、地域の人たちが自分たちの関わりしるを想像しにくい。

・この事業が進むと、観光が盛んになって人が来るようになり、渋滞を引き起こすと住民にとって迷惑な施設と思われてしまう。そうではなく、地域にどれくらいお金が落ちるか、その機能として宿泊・機能や、自分たちへのメリットを感じ続けられれば、自分たちにありがたい施設になる。

- ・この施設を作っていくのに住民がどのように参加していくかが見えた方がいいのではないか。センターハウスを作るのも、自分たちが使いたい、関わりたいと思うデザインが必要ではないかと思う。
- ・観光は何人来ていくら落ちるのか、収支の話になってしまうが、観光まちづくりはそうではなく、儲かったものがどう使われるかも一つの手段だし、市民交流や文化はお金に変えられない、持続可能な黒字経営にしていくことが求められる。黒字にならなくても、駅からの動線を考えた時に観光だけではなく、地域の人も使える移動手段になっているとか、センターハウスもカヌーはやらないが、眺望がよく、災害の避難所となっていて、自分たちにとってありがたいものになっていると、長い目で見た時に地域住民にとって必要な施設と思ってもらえるのではないか。
- ・引き続き関わり続けるためにはといるところ、今関わっていない地域の方がどう関わるのかというところ。

【委員】

- ・今回水辺の話が主になったと思うが、篠ノ井線廃線敷や長峰山に関して資料で挙げられているのがこれまでやっていることと特に変わらない印象。
- ・川のところを充実させてそこに人の流れを作ることも大切だが、これらのゾーンを結ぶのは車や自転車でこれらをどう活用するのか。明科は道幅が狭い、バスが回転できるところが少ない、駐車場でできる場所がない、道路の拡幅ができないといった問題がある。
- ・長峰山は通年楽しめるのがキーポイント。冬はクローズになるが、そこをどうするのか今後期待したいところ。
- ・宿泊施設や駐車場不足、イベントになるとシャトルバスを回さないといけないという現状。限られた土地の中でやりくりすることは大変だが考えて欲しい。環境を考えた時に、自転車の活用も組み合わせ考えて欲しい。

【委員】

- ・色々なエリアに行くというお話で個人的にあつたらいいと思うのが、E-bike やロードバイク等、アウトドア寄りの普通の人も利用できるもの。
- ・長峰山までロードバイクで登れる等のアクティビティやマップがあつて色々なところにいける、お客様がそこに行けば広域で遊べるというのが、アウトドア拠点らしくて良いのではないか。

【委員】

- ・観光協会が今年 E-bike を導入しているが、公道の関係で穂高駅でしか貸し借りできない。
- ・シェアサイクルは 4、5 年経ち、市内 18 箇所あるが、明科は駅しかない。利用者数は増加傾向。松本や塩尻からの乗り入れもできる。外国人も乗りたがるが、アプリを入れてカード決済だと電話番号でひっかかることもある。使える国の方もいるが、ダメな場合は穂高駅で自転車屋のレンタサイクルをご案内する。
- ・E-bike は 3、4 台導入したが、高価であるため、野放しできないというところもある。

【委員】

- ・民泊でクロスバイクを貸している。外国人の方は国際免許を取ってこないから、やはり自転車でわさび農園にいたり、川沿いをサイクルしたり、人気。
- ・車がある方は上高地などに行ってしまう。

【事務局】

- ・16日の現地視察の際に改めてセンターハウスのイメージを共有する。
- ・次回は12月5日（火）10:30からを予定。